



2020年東京大会の先へ！ ～駐日ドイツ大使館とのホストタウンミーティング～

(一財)自治体国際化協会交流支援部交流親善課 プログラム・コーディネーター アライジャ・フランコ

去る5月16日にドイツ大使館との共催により、ドイツ大使館および大使公邸において2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会（2020年東京大会）に向けたドイツホストタウンミーティングおよびレセプションを開催しました。ドイツとの姉妹都市交流自治体など24自治体の職員が参加し、2020年東京大会をきっかけとしたドイツとの交流事業や取り組みについて事例発表が行われました。

日独自治体の交流状況

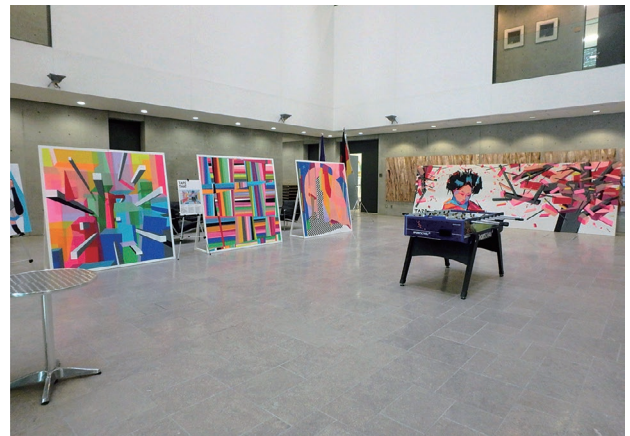
現在、日本とドイツの自治体間の姉妹・友好都市提携件数は55件にのぼり、ヨーロッパでは最も多い国となっています（2019年5月末時点）。さらに、2020年東京大会では20自治体がホストタウンとして交流しています（2019年3月5日時点）。また、2019年は、ドイツからのJETプログラムが30周年を迎え、これまで305人のドイツ人の若者を受け入れてきました。2018年7月1日現在では、ドイツ人の現役外国語指導助手（ALT）および国際交流員（CIR）を合わせたJET参加者数は22人となっており、JETプログラムを通じて言語教育から文化交流に至るまで多岐にわたる交流が続けられています。



ハンス・カール・フォン・ヴェアテルン大使によるご挨拶

東京大会のスタートラインに向けて

ホストタウンミーティングの第1部では、ハンス・カール・フォン・ヴェアテルン駐日ドイツ大使の主催者挨拶に始まり、大使館の職員より「TAPE THAT」というテープで制作された美術作品の巡回展示事業やホストタウン自治体に対してツイッターなどのSNS活用方法について紹介がありました。



ドイツ大使館の巡回展示「TAPE THAT」の作品

次に、具体的なスポーツ交流の取り組みとして、ドイツオリンピックスポーツ連盟より、2020年東京大会期間に開催される日独青少年ユースキャンプについて紹介がありました。また、内閣官房オリンピック・パラリンピック事務局より2020年東京大会に向けた市民の機運醸成の重要性や、スポーツのみならず、さまざまな分野で行われているホストタウン交流の取り組みも紹介されました。

第1部の終わりでは、兵庫県豊岡市スポーツ振興課長より、2019年8月からのドイツ人CIRの受入れや2020年に企画されているボート選手を中心とした日独ジュニア交流事業などについてお話をいただきました。

スポーツから他の交流“競技”への挑戦

ホストタウンミーティングの第2部では、当協会よ

り JET プログラムの説明を行った後、宮崎県延岡市の
ブブリス・カリナ CIR が「アスリートタウンのべおか」
およびドイツ人 CIR としての取り組みについて発表を
行いました。ブブリス CIR は、ドイツ語講座や料理教
室、ドイツクリスマスマーケットといった文化的なイ
ベントを企画・開催するばかりでなく、延岡市のホスタ
タウン事業について、通訳者としての役割を超え、ドイツ
人目線からのアドバイスや選手との交流に大きく携わっ
ているとのことでした。



ブブリス・カリナ CIR の活動報告

続いて、「ドイツの地方自治体によるスポーツ支援政
策」について、クエアロンドン事務所のキルヒナー・イ
ルメリン ベルリン駐在員が講演を行いました。スポー
ツ振興にかかるドイツの州政府の役割や連邦政府との分
権について解説し、ミュンヘン市やアーヘン都市部地域
の事例を紹介しながら、地方自治体のスポーツ支援政策
を説明しました。最後に、クエアロンドン事務所の JET
経験者に対する支援や日本の自治体による PR 活動の支



キルヒナー・イルメリン氏の発表

援など、クエアロンドン事務所の概要について説明しま
した。

ミーティングの締めくくりとして、ドイツ人シェフの
マーカス・ボス氏よりドイツの各地方における食文化に
関するプレゼンテーションが行われました。

2020 年東京大会の先へ

ミーティング終了後は、大使公邸へ移動し、レセプシ
ョンが開催されました。鈴木俊一東京オリンピック・パラ
リンピック担当国務大臣による乾杯の発声を皮切りに、
参加自治体職員やドイツ関係者の間で活発な意見・情報
交換が行われました。



鈴木東京オリンピック・パラリンピック担当国務大臣の挨拶の様子

2020 年東京大会まで 1 年を切りましたが、ホスタ
タウンによる交流を契機として、今後、ドイツとの間で
さまざまな分野にわたる継続的な交流が実現できるよう
に応援しています。



ホスタタウンミーティングへの参加者の集合写真